

# 飯田高校同窓会報

第四号  
 発行所 飯田高等学校同窓会  
 長野県 飯田  
 編集発行人 村俊雄  
 吉 印 刷 所 共 同 印 刷 機  
 飯 田

## 昭和47年度

### 定期総会開かる

八月二十日(日)午後一時より飯田高校新館三階会議室において、昭和四十七年度同窓会定期総会が開催された。

例年のようなおさまりの議事日程であったが、特徴らしいものを取り上げてみよう。

先づ、開会の辞に続いて物故会員の冥福を祈って黙禱を捧げる。昨年の総会以来の一年間に新たに物故された会員の紹介があったが好評であった。しかし本部へ連絡のあったものだけでまだ洩れているのがあった。出来るだけなくなるよう協力をお願いしたい。又この紹介された中で本部から弔電を差し上げることのできたのは半分以下であった。

会長の挨拶は、支部や同級会の活発化と本部との連絡を強調する所謂「コンミニュケーション論」(会報三号参照)。浪人教室の現状と抱負が述べられた。そういうえば、地元では支部の会合を持つているのは三、四に過ぎない。会長の「コンミニュケーション論」はまだ当分統制とみられる。不明者の調査に地域で協力してもらえよう。体制が望まれる。

次に、平凡な、予算、決算報告、事業案のところ、質疑や意見が出たことは、最近珍らしい現象であるが、関心が高まったと見るよりも、発言しやすい、和やかな気楽な雰囲気が出ていたからだと解したい。

議事が終わったところで突如、緊急動議があった。中島衛氏(高六回)の衆院選出馬に同窓会として推薦をされたいということ。飯田市長選出馬の松沢太郎氏(中二十九回副会長)も同様に扱えという意見も出て、しばらくガヤガヤ。結局議長は、同窓会は政治団体でないから、それは有志の問題として此の動議は却下となった。

閉会の前の校歌の音頭が矢高東氏(中十一回)万才の音頭が駒ヶ根市から参加



定期総会 47.8.20

#### 昭和47年度 飯田高校同窓会予算書

収入額	2,202,228円	支出額	2,202,228円	差引残額	0
☆収入の部					
前年度繰越金	318,228円 (内120,000円は電話債券)	入会金	369,000円	維持会費	1,500,000円
利子	15,000円	その他	0円	合計	2,202,228円
☆支出の部					
人慶会	542,500円	報費	220,000円	維持費	200,000円
内訳	40,000円	他会費	50,000円	集金	284,000円
事務費	200,000円	印刷費	30,000円	立備	40,000円
1. 総務	90,000円	1. 会費	25,000円	ト	320,000円
2. 幹事	65,000円	2. 雑費	40,000円	立備	30,728円
3. 役員	15,000円	3. 印刷	180,000円	合計	2,202,228円
4. 交際	30,000円	内訳	0円		
事務費	40,000円	印刷	0円		
立備	470,000円	立備	0円		

積立金現在高  
 昭和45年度 500,000円  
 昭和46年度 800,000円

#### 昭和46年度 飯田高校同窓会決算書

収入額	2,708,763円
支出額	2,390,535円
差引残額	318,228円
(内120,000円電話債券)	

収入内訳		決算額
繰越金	436,239円	
入会金	353,000円	
維持会費	1,324,580円	
贈呈名簿代	453,000円	
名簿売却代	93,415円	
雑収入	30,535円	
利子	17,994円	
合計	2,708,763円	

支出内訳		決算額
人件費	450,000円	
事務費	33,939円	
人事費	76,309円	
事業費	157,169円	
印刷費	99,050円	
立備費	522,200円	
立備費	143,159円	
立備費	25,687円	
立備費	83,022円	
立備費	800,000円	
立備費	0円	
合計	2,390,535円	

会計監査 昭和47年5月26日  
 丸山昌寿 奥村幸三

面参照) 現在吾々が直面している問題であり、吾々が求めていた課題に方向づけを与えてくれたもので、大きな感銘をもって聴き入った。更に質問の時間をもうけて、これ又統出の質問に講師の豊富な資料が提出されて三十分が忽ち過ぎてしまった。四時二十分終了。尚、出席者は記載されたのが八十六名、お義理にも多数とはいえないが、高校卒の若い会員が多く出席されたことは嬉しいことである。懇親会は約六十名が参加、予定より約一時間おくれた為に同級会の第二会場へ急ぐ人達もあったが、互に久調を抒すグループがあちこちにいつまでも名残りを惜しむ風景も見られた。

# 故松村正澄君を想う大沢隆三

昭和四十七年六月二十五日松村君が亡くなった。月毎に必ず一回は逢って、元気な顔に接していたので、信じられない突然の訃報に驚愕、急死神戸へ飛びつきたが、もう、呼べど応えぬ悲しき柩の中の人となつてしまつてた。その二、三日前、稍疲れたようであつたが、当日は診療所にも出て夕食後、気分が悪いといひ、様子も多少変わつていたので、内科医の来診手当てを受け、その甲斐あつて一時小康を得られ、眼を覚して枕頭の夫人に「どうしてそんなに騒ぐのか」と、そんな一言話し合つただけで、間もなく容態が急変しその間約十分、午後八時十五分ついに永久の眠りに就かれたとのことである。誠に痛恨の極みでありました。今君の略歴を見るに、

明治三十二年三月二十八日飯田市に生れる。

明治四十四年三月、飯田小学校尋常科卒業。大正五年三月、県立飯田中学校卒業。大正十年三月、東京歯科医学専門学校卒業、同時に母校の研究室に入り、次いで慶大医学部歯科学教室の助手となる。大正十三年神戸市立市民病院に勤務、



次いで兵庫県庁歯科診療所に転じ、神戸市内に歯科診療所を開設し、かたわら京都帝大医学部に通ひ、研究に没頭精勵した結果、昭和十七年一月、同医学部より医学博士の学位を授与された。昭和十八年、初代兵庫歯科医師会の官選専務理事として活躍し、その他歯科医師会代議会議長、県学術委員長、生田区歯科医師会長、神戸市歯科医師会連合会副会長等を歴任し、歯科医業界のために大いに活躍されたのみならず、神戸ユネスコ協会会長、生田区選挙管理委員長、学校教育振興等あらゆる分野で活動されて、昭和三十二年十月教育発展の功績により神戸市長賞を、昭和三十三年健康保険業務の功績により兵庫県知事賞を、昭和四十二年、定時制通信教育に功績のため文部大臣賞を、それぞれ授与され、これら数々の業績が実つて、昭和四十四年四月、従六位（此の度正五位）勲五等双光旭日章

の叙位叙勲の榮譽をになつた。君の生涯を通じて最も得意で最も嬉しかつたことのようにあつた。尚、最近時流に応じ神戸市青少年問題協議会理事に推され君の活動を期待されていたのであつた。

一方同郷同窓のためには、兵庫県長野県人会長を継ぎ飯田高校同窓会の神戸支部長を兼ね関西支部連合会長となり、会員の信頼を集め、幹事努力を惜しむことがなかつた。

こうした反面に俳句をよみ、去る三月、天竜峡ホテルでの小学校同級会の席上、即吟に、

古稀も過ぎ、なおも  
若やく梅の宴 木公子

また君独特の警句をもつてする年頭の賀状に、

、72エトがしらの子の  
歳を祝し、ご自愛をお祈りいたします。

ゴテ後手の  
日本政治の甘さ加減  
ゴテ得の  
日本経済の辛さ加減

頭越し訪中ドルショックでニク損し  
エコノミックアニマルでニクマレ損など  
国際理解と協力の心を、より一層育てたい。

昭和四十七年元旦  
松村正澄

これからは、君の賀状も永遠に來ないし、春になつても、老梅の匂いを交わすことも出来ない。まことに哀愁、轟々と胸にせまるものがある。嗟々。

(神戸支部長、中十五回)

## 費 会 持 維

ご協力をいただいた十月十八日現在二千四十九名が納入し下され、尚毎日二人三人とご送金下さっております。

特に今年は、今までの三年分を纏めて送金してくださる方が多くこのことは、まことにうれしく、また、力づけられます。

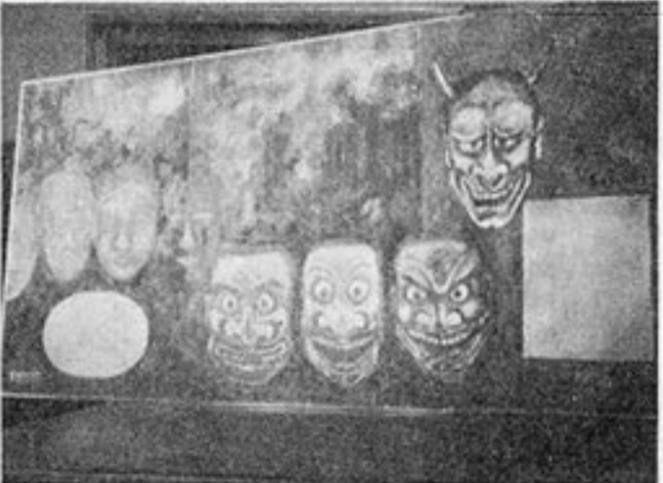
未納の方はどうぞお願いいたします。五百円ずつが億劫でしたら二年分でも四年分でも結構です。

尚、五年分二千五百円納めた方には次期名簿は無償配布されることを繰りかえし申し上げます。

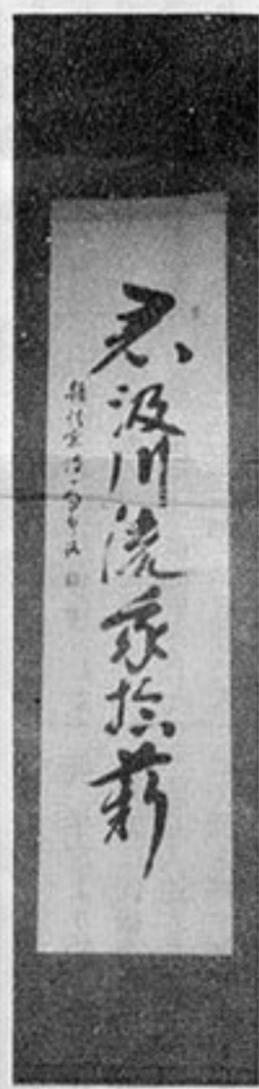


## 寄贈品紹介

- 最近寄贈いただいた作品を紹介いたします。
- 後藤光正殿 (中三十三回) 油絵 (三尺×六尺)
  - 矢高 東殿 (中十一回) 書 (表装、箱入)
  - 田中正明殿 (中二十九回) 著書「日本無罪論」
  - 福西 勇 先生 (昭十年〜十四年まで) 本校 理科教諭
  - 伊藤千春 先生 (昭七年〜十一年) 本校 国漢教諭
  - 著書歌集「赤土」
  - 著書「星は流れる」



写真は ▲後藤光正氏の力作  
◀ 矢高東氏の一筆



市田

山吹

上片桐

学校

前号で既報ではあるが、去る五月二日夜行なわれた強歩大会に参加した小林永劫氏(中二一回)より寄稿がありましたのでここで紹介致します。

部隊行動で一日七十里(百二十キロ)歩くというし、以前甲府中学では行けるだけ行くという式で、幾人かは大町まで行ったという。最近の世界記録は三百数十キロだ。しかし半マラソンの間に互に先を急ぎ、おまけに途中七ヶ所の関門で厳しく時間規制をして、これに遅れた者は落伍扱いとなる。話は別だ。

夜道を山本から天竜峡に出て北上、上伊那上片桐を廻って帰る七十キロは一応なかな歩きである。今年五月二日、当夜は凄く寒波で水は凍り、全郡下の桑園は株まで凍枯した。出発前教員室では、道に寝込めば凍死者を出すと言った先生もあつた。よくも永年無事故で来られたものよ。どうか今年も全員無事であつてくれ。

暗い山路には、吐いたり、気持が悪くなったり、弱って酒を飲む者、又道を間違えて駒場の方へ行きかけた者もある。天竜の断崖沿いに延々十里の長蛇、先頭は四時間余ですでに学校に着いても、尾はまだ下久堅辺である。ガードレールもない頃、昼間でも自動車が落ちて直接天竜の激流に沈んだ所もある。疲れて硬い脚で走っていて、けつまづく、体はうまく前に放り出されてライトは前に飛ぶ。夜通しのPTAの焚火も文字通りののちを護つて来た。或る年二人の生徒がフラフラと長野原の用水路に落ちた。帽子も流してズブ濡れ。まだ十里以上もある。ぬれたままこの疲れた体で夜道を行けるものではない。どうしよう。PTAの人が火を焚いていた。着替えが

るものもある。又、勇心遂に力つきて眼を赤く怒らしているものもある。その無念やるかたなきが痛い程わかる。一人残らずが実に第一着者に劣らぬ、襟を正したくなるような全力苦闘をやるのだが、最後の二、三里には敗戦の傷兵よろしくの姿で人眼を打つ。学校に着くなり動けず、家からの自動車に迎えられる者もある。当日は腰を曲げて電車を降りる生徒が随所に見られる。或る年女生徒と道連れにな

れというものをかき立てて下さって感謝の言葉もございませぬ。あの時の苦しさ、嬉しさは一生大事にして行きたい。とあつた。往年の第一着者、生徒会長をやつたK君、今、北大医科からだ。今年阿島を過ぎた頃から一人の少年と幾度か前後した。彼は傷ついたヒョッコのような恰好でせびとも生田へ時間迄に着きたいという。一年生だ。それに引

かされて、二人で三、四キロ必死に走つたが、我は一分、彼は五分遅れた。落伍者というわけだ。「えい、かまわん、行こうY君」。しかし、我らは上片桐へは時間四十分前に着いたのだ。変な落伍者ではないか。それから連れだつて歩いたがY君、いつしか歩けなくなつた。百米ぐらい待っていて、びったりくっついて引いて行く。いつもなら最後のこの辺では百人位は抜けるところだが、今は反

強歩大会に参加して

小林永劫

生田

四代前の校長宇野氏の時から飯田高の強歩に参加することになったが、その深い魅力が病みつきになつて、これで七回完歩。特に今年卒業満五十年だ。あれからもう半世紀過ぎたか、後からあとから潮の如く続く若者達、孫のような高校生に伍して古い級友をも記念しつつ歩いた。七十キロは決して長い距離ではない。中共軍は

出された。曰く「今夜、うちの子供も何処でこのお母さんにこうして御世話になることやら」と。全くジーンとくる。この心持が全員にある。更にそこへ少数の女生徒が加わる。家人の反対をも、おして来るのだ。「気をつけて行けよ」の声援も一層だ。当夜女子のコースは別に切石一弁天上片桐廻りの四十キロなのだが、凄く強いのもいて、男子千人中で八十番位にな

つた。盛んな拍手や「お父さん？」ときさやく声。翌年の強歩で或るお母さんが「去年はお嬢さんとご一緒だった」と言つたので前年の拍手が読めた。PTAは身が入り過ぎて我等を親子と見てしまったのだ。家庭から懇篤な礼状を受けた。或る年出発直前に速達。そのままポケットに入れて出かけたが「先輩、今年も僕の分まで頑張つて下さい。限りない若き日の憧

対に、のろのろ連中すら皆我等を抜いて行く。たまらなく、美しく、そしてこれから長い長い道を生きつぎ、生きつぎして歩いて行くのだ。あせつて変な急ぎかたをするな。一步を歩むことは全体を瞬間を生きることは永遠を生きることだ。限りなきものに引かれてこの道を歩いて行こう。掃途歩いて八幡原の昔の人焼場の所まで来た。松の樹陰の芝生に横になつてバナナを食つていたが、いつしか眠つた。眼が醒めたら食いかけのバナナが胸の上に乗つていて。空は飽くまで青く、快い眠りだった。

対に、のろのろ連中すら皆我等を抜いて行く。たまらなく、美しく、そしてこれから長い長い道を生きつぎ、生きつぎして歩いて行くのだ。あせつて変な急ぎかたをするな。一步を歩むことは全体を瞬間を生きることは永遠を生きることだ。限りなきものに引かれてこの道を歩いて行こう。掃途歩いて八幡原の昔の人焼場の所まで来た。松の樹陰の芝生に横になつてバナナを食つていたが、いつしか眠つた。眼が醒めたら食いかけのバナナが胸の上に乗つていて。空は飽くまで青く、快い眠りだった。

対に、のろのろ連中すら皆我等を抜いて行く。たまらなく、美しく、そしてこれから長い長い道を生きつぎ、生きつぎして歩いて行くのだ。あせつて変な急ぎかたをするな。一步を歩むことは全体を瞬間を生きることは永遠を生きることだ。限りなきものに引かれてこの道を歩いて行こう。掃途歩いて八幡原の昔の人焼場の所まで来た。松の樹陰の芝生に横になつてバナナを食つていたが、いつしか眠つた。眼が醒めたら食いかけのバナナが胸の上に乗つていて。空は飽くまで青く、快い眠りだった。

対に、のろのろ連中すら皆我等を抜いて行く。たまらなく、美しく、そしてこれから長い長い道を生きつぎ、生きつぎして歩いて行くのだ。あせつて変な急ぎかたをするな。一步を歩むことは全体を瞬間を生きることは永遠を生きることだ。限りなきものに引かれてこの道を歩いて行こう。掃途歩いて八幡原の昔の人焼場の所まで来た。松の樹陰の芝生に横になつてバナナを食つていたが、いつしか眠つた。眼が醒めたら食いかけのバナナが胸の上に乗つていて。空は飽くまで青く、快い眠りだった。

山本

天龍峡

阿島

林建彦氏、中四六回卒。竜江出身、金沢大(四高)を経て名大(経済)を卒業しサンケイ新聞社へ入社する。現在サンケイ新聞政治副部長。嘗って、ソウル特派員、東南アジア移動特派員、また、佐藤前首相訪米の時同行取材。

主な著書として「韓国現代史」「北朝鮮と南朝鮮」「朝鮮戦争史」「官僚」などがある。なお、目下(四十七年十月)ソ連へ出張中である。

私のような若輩をお招き下さいましてありがとうございます。今朝のテレビ、新聞で、ホノルル会議、北京会議という国際的に重大な頂上会議を控えている日本へ、日本嫌いで有名なキッシンジャーがやって来たことを報道しているが、これは、日本の国際的地位が非常に高まった事象の象徴的な現われではないかと思う。このことが「戦後体制の終焉」という事に関係してくる。昨年のニクソン訪中の発表、今年の訪中、共同声明など歴史は大きな変化をむかえて雪崩現象をむかえていると思う。ある哲学者が「歴史」というものはある段階に

きな変化をおこす」と言っているが、戦後三十年近く経ち、今やそういう時点にきたのではないかと、およそ二十年間の記者生活の中で感じる。その最大のもので、ニクソンの訪中であり、長いこと敵対関係にあった中国指導部と握手をし、上海での共同声明こそ戦後体制の終息を意味するものではないか。

戦後体制とは、東西体制冷戦体制の事である。冷戦体制は、一九四七年のトルーマンドクトリンに始まる。トルーマンが「今や世界の体制は、平和より自由を守る事が大切である。」「国際共産主義の侵略に対して自由主義陣営をあげて戦う」と宣言し、これによって東対立冷戦体制が開始されたのである。この冷戦体制の中で、一九五〇年六月、朝鮮戦争の勃発を契機として米ソ対立に加えて米中対立という新しい局面が生まれ、これがずっと継続されて来たが、今年のニクソン訪中と米中共同声明によって終息されたという事ができる。こうした歴史的過程の中で、いま

新しく出てきたものが、米中ソの三極構造体制といわれるものである。それも米中対立の三極構造ではなく中ソ対立の三極構造である。さらに日本・E・Cを含めて四極構造と呼ぶこともある。とにかく、ニクソン訪中により国際情勢における東西対立冷戦体制というものに区切りがついたのではないかと見られる。

# 戦後体制の終焉

講師 林建彦氏  
念講演より

国内政治における戦後体制の終焉は、佐藤政権の終焉をもって見ることが出来るのではないかと。佐藤首相は政権担当直後の訪中で、「沖繩帰らずして戦後は終らず」と発表した。この佐藤政権により沖繩は返還され、この沖繩の返還され方については、種々の意見評価の対立はあれ、世界政治の中における沖繩がもたらしたという事は、ひるがえって、そのまま日本の国内政治における大きな区別を意味しているのではない。

池田・佐藤は吉田茂の優等生であり、吉田内閣は何をしたかと言えば、それは日米安保を基軸とした対米協調路線であり、戦後日本政治を特色づけてきた基盤を形成したの

である。その忠実な政治の後継者としての池田・佐藤政権であった。その佐藤政権によって戦後体制の終結がはかられたといえる。そして、佐藤政権の終盤には日米経済闘争とも言われる程の日米間における経済対立が生じて、日米間における戦後体制終焉の方向は、かなり明確にあらわれて来たのであり、田中政権の成立という指導部の転換によって区切りがついたと見ることが出来るのではないかと。池田・佐藤外交は米国の大きな傘の中にあり世界的に大きな高度なインパクトを与えようとしたものなかつたが、田中政権の成立と田中訪中による日本の独自外交は、まさしく今までの日本外交から脱却することに

なり、ソ連は日中の接近をおそれ、世界は日本に注目し、日本外交は国際的に大きな影響を与える事になったのである。

米国の未来学者であり情勢分析家ハーマン・カーン氏は「二十一世紀は日本の世紀になるだろう。日本は遠からず大国になるだろう。一九七一年からは日本人の口をきき方が変わるであろう。そして、世界秩序をみだすおそれも出て来るであろう。また、米国の経済危機はさらに進行するであろう」というような意味の子

言を一九六九年にしている。下村経済学博士は「一九八〇年には、全欧州GNPより大きい七五〇〇億ドルGNPになるだろう」と指摘している。こうした状況はすでに今日現われつつあり、大国となった日本の政治は重要な問題として内外から注目されて来ている。今年の経済白書は、需給のアンバランス、設備過剰・大巾に増大する赤字・円切り上げ等について触れ、超高度成長の為に環境破壊を来たし、福祉の立ち遅れを来たしており、高度成長経済政策を切りかえ、高福祉策に重点をおかぬばならないという重大な反省が政府の白書で指摘されている。これは、戦後体制の終焉の大きな指標となるのではないかと。戦後体制終焉のもうひとつの大きな理由として米国の世界支配体制の崩壊をあげることが出来る。軍事政治面におけるニクソンの訪中訪ソによる緊張緩和、ベトナム早期解決策の失敗。経済面におけるドルの威信の全面的低下は、その代表的な例であり、また、日米通商会議における米商品二十億ドル輸入の強制、ホノルル会議にむけてのキッシンジャーの来日等にみられるように、日米関係において戦後体制の終焉を指摘できるのである。さらに、

# 話のたね

御来室の際の話や、振替用紙の備考欄に、或はわざわざハガキで寄せられた御意見には同窓会への愛情がこもっており、匡中に藏しておくには忍びないので、話のたねにさせていただきます。ご紹介します。

▲維持会費五百円には名簿無償の為の積立金が含まれるというが、名簿を有償にして、会費を仮に三百円位とすれば、もっと多数が納入出来るのではないかと？

▲事務局長は名簿無償の積立に窮々としておるようだが有償にすればもっと余裕のある運営が出来るし、基本金積立を考え、長期計画のもとにその利子で人件費が賄えるようにしたらどうか。

▲総会の懇親会はビールパーティときまっています。今年度の懇親会はビールパーティときまっています。今年度の懇親会はビールパーティときまっています。

▲今年の懇親会は会費不要という新手法だった。が、出席を多くというなら、力を持たせることを考えよ。

▲維持会費の納入状態が悪いと聞くが、納入者が取り立てないと、納入者が損をする結果となり、納入がますます減って行く心配はないか？

▲総会の持ち方 予め当番を各回幹事連に割り当て、自由な趣好を考えさせたらどうか？

▲いろいろな御意見をお寄せ下さって感謝致します。今後、お気付きの点、御意見がありましたらどしどし事務局へお寄せ下さい。

▲一時払い一万円で永久会員になれるという方法を採用する考えはないか？



戦後体制終焉の具体的事例を上げてみる。日米安保締結より歴代内閣は、ワシントンへ参勤交代をして来たが、今度の田中・ニクソン会談は、米側から招かれ、ホノルルで開催された。ワシントンまで来いと言われれば田中は断ったであろうといわれている。米の記者も安保騒動で日本観を変えらるべきだと発言しており、両国の対日米観の変遷を見る事ができ、日米対等の関係へと展開して来ている。また、安保の検討の事が日本の中から出はじめたこともあげられる。今の安保は、あまりにも軍事色が強すぎるから軍事色をもつとやわらげ、ゆるやかな政治内容を盛った条約という声が政界だけでなく防衛庁幹部からも出るようになっており、戦後日本を規制して来た安保にさえも重大な批判がむしろ日本側から出ている。安保のメリット・デメリットを冷静に計算してあるべき姿の安保にしたという要請が出て来ているのである。これに対して最近の中国では、安保の評価に変化が現われ、今まで安保を米帝国主義の関連でボロクソに批判してきていたが、安保は日本の軍備拡張、軍国主義化の野望を押えているのに役立つという評価が出て来ているし、ニクソン

も安保によって日本が危険な存在にならないように押えていっていると発言している。ソ連は、日中接近により安保は完全に空文化しつつあり古典的日米協力関係は崩壊しつつあるとみて、日本は独自に再び昔の大国の道を歩みはじめたという疑いを強めている。安保問題ひとつ取り上げてみても、戦後体制の終焉を見ることが出来る。田中訪中と訪中からんだ中ソ対立、日本の評価の仕方を含めて米中ソの三極構造が今後どのように展開していくかは予測を許さない。しかし、次の中国における変化を確認しておく必要がある。ひとつは、日中接近に関する中国指導部の変化である。佐藤政権がおわるのを待ちかねたかの如く田中政権成立後、急速に北京の接近が行なわれたが、これは中国の経済建設がおもわしくない事から日本に経済協力を求めている事の現われと見ることが可能であり、日本の高度成長経済に対する従来の評価にも変化がみられてきたし、国交三原則だけでは良いという柔軟な姿勢を示

# 戦後体制

## 昭和47年度同窓会総会記

してきている事からもうかがえる。こうした米中外交、日中外交を通して林ビョウ問題以後、混乱を拾取する周恩来体制の完全確立が追求されているといえよう。つまり、中国指導部の対日政策の転換が

立の中で米中接近へと従来の方針の転換が中国内部の要請によっても出て来ている事である。そして、この深刻な中ソ対立をはじめとし今や社会主義陣営はかつての一枚岩の団結がくずれ多極化と対立を生み出し、この終焉を見ることが出来る。以上現時点における流動する世界情勢を戦後体制の終焉として説明してきた。

こうした戦後の時代の終焉に際して、日本はいま、自らの手で国の進路を決定していかなくてはならない。気が付かないうちに大きな経済力を持った国になってきている日本の今後の進路を外国は非常に警戒し疑いの目で見ています。この点を日本は充分に考えてやっつけていかなくてはならない時点にきている。日本はいままで米の核の傘の下だけでなく、屋根の下で雨風を防いでここまで高度経済成長をとげて来ており、米だけが、日本が世界を見る開かれた窓のただひとつであった。このように戦後日本は、米の大きな影響力を受けて来たが、いまやまさに脱却しつつある時代に直面している。これからの日本の在り方は少なくとも世界の体制に対してかつてのようにもう一度挑戦するような日本では駄目であり、圧力を生むような日本にもなりたくないというのが我々日本人の当面の結論でなくてはならないのではないかと思ふ。当面の試金石としては、ホノルル会談であり、これはすべて田中の北京会談を控えた重大な前哨戦であり、これをへて北京でどういう形で日中国交正常化の筋道をひけるかという重要な戦後日本初の外交であり選択の第一歩でありその意味で歴代の内閣とちがって田中内閣はまさに日本の運命を自ら切り開かねばならない初の内閣であり、これが即ち戦後体制の国内における必然であると理解して良いのではないか。

どうも長時間ありがとうございました。 (文責 中島正嗣)

なお、講演のあといくつかの質問が出た。その主なものは「列島改造論」「朝鮮問題と米中・日中接触」「ベトナム情勢」「防衛計画と日本の軍国主義」等についてであり、林先生から詳しい説明があったが、紙面の関係で省略します。

中国内部の要請によっても出て来ており従来と大きく変化してきた点である。もうひとつは、米中接近に関する中国指導部の変化である。米中の長い対立の中で中国は何故ニクソン訪中を受け入れたのかという事に関してである。キッシンジャーがニクソン訪中の下準備のため訪中した時、偵察衛星からの写真を持参したと言うが、その写真は例えばソ連の今年の穀物の収穫がどの程度かわかるほどの精巧な写真だというのが、我々が想像する以上の深刻な軍事対立を繰返している七千キロにわたる中ソ国境のソ連の軍備配置状況を全部撮ったスパイ衛星からの写真を中国にわたし、周恩来はそれを見て驚いたというエピソードがあるが、この事から知ることが出来る。米中対立よりも深刻な中ソ対

立の中で米中接近へと従来の方針の転換が中国内部の要請によっても出て来ている事である。そして、この深刻な中ソ対立をはじめとし今や社会主義陣営はかつての一枚岩の団結がくずれ多極化と対立を生み出し、この終焉を見ることが出来る。以上現時点における流動する世界情勢を戦後体制の終焉として説明してきた。

こうした戦後の時代の終焉に際して、日本はいま、自らの手で国の進路を決定していかなくてはならない。気が付かないうちに大きな経済力を持った国になってきている日本の今後の進路を外国は非常に警戒し疑いの目で見ています。この点を日本は充分に考えてやっつけていかなくてはならない時点にきている。日本はいままで米の核の傘の下だけでなく、屋根の下で雨風を防いでここまで高度経済成長をとげて来ており、米だけが、日本が世界を見る開かれた窓のただひとつであった。このように戦後日本は、米の大きな影響力を受けて来たが、いまやまさに脱却しつつある時代に直面している。これからの日本の在り方は少なくとも世界の体制に対してかつてのようにもう一度挑戦するような日本では駄目であり、圧力を生むような日本にもなりたくないというのが我々日本人の当面の結論でなくてはならないのではないかと思ふ。当面の試金石としては、ホノルル会談であり、これはすべて田中の北京会談を控えた重大な前哨戦であり、これをへて北京でどういう形で日中国交正常化の筋道をひけるかという重要な戦後日本初の外交であり選択の第一歩でありその意味で歴代の内閣とちがって田中内閣はまさに日本の運命を自ら切り開かねばならない初の内閣であり、これが即ち戦後体制の国内における必然であると理解して良いのではないか。

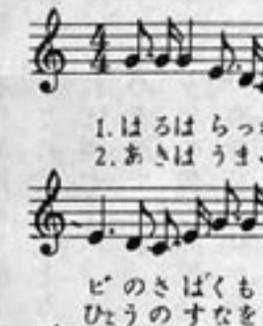
どうも長時間ありがとうございました。 (文責 中島正嗣)

なお、講演のあといくつかの質問が出た。その主なものは「列島改造論」「朝鮮問題と米中・日中接触」「ベトナム情勢」「防衛計画と日本の軍国主義」等についてであり、林先生から詳しい説明があったが、紙面の関係で省略します。

どうも長時間ありがとうございました。 (文責 中島正嗣)

なお、講演のあといくつかの質問が出た。その主なものは「列島改造論」「朝鮮問題と米中・日中接触」「ベトナム情勢」「防衛計画と日本の軍国主義」等についてであり、林先生から詳しい説明があったが、紙面の関係で省略します。

講演する林氏



### 飯田尚志社咬菜歌

### なつかしの歌

一、春は落花を踏み越えて  
ベースにすべる 健脚や  
ゴビの砂漠も シベリヤも  
などか他人の ゆたぬべき  
ふみ足焼くる 夏の日に  
海路を走り 山を跳び  
ゴザ一枚に 破れ笠  
ただ五世界を 家として

二、秋は馬肥え 天高く  
體肉の喉を もらさんと  
土俵の砂を蹴散らして  
驚を手取りに獅子を友  
つく息凍る 冬の夜は  
竹刀なる 寒稽古  
大和心を 人間わす  
先づ 同志社に来ても見よ

三、東雲白む 朝ぼらけ  
長幼序ある 窓の下  
読書の胸は 朗として  
惰者の眼りを 醒すらん  
夕月向う たそがれに  
和気洋々の 堂の内  
善を攻めつつ 親しめる  
友はホームの 思いあり

四、正義の旗を 押し立てて  
博愛衆に 及ぼすは  
神州男児 五世界を  
一つに統べん 道なるぞ  
分け行く道は 異なるも  
只その心は 皆一つ  
よく修養の 美をつみて  
やがて高嶺の 月を見ん

1. はるはらっかを ふみこえて ベースにすべる けんきやくやゴ  
2. あきはうまこえてんたかく ひにくのたんを もらさんとど

ビのさばくも シベリヤも などてかひとの ゆたぬべき  
ひうのすなを けちらして わしをてどりに ししをとも

ふみあしやくるー なつのひに うみじをはしりー やまをどび  
つくいきこおるー ふゆのよは しーないうなるー かんげいこ

ゴザいちまいに やぶれがさただ ごーせかいーを いえとして  
やまどごころを ひとどわばます しーうししーに きてもみよ

# 関西同窓会

九月十五日、敬老の日、京都府宇治市黄檗宗大本山万福寺内檀信徒会館において、第九回関西支部連合会総会が開催された。

当日は折悪しく台風二十号が関西地方へ来襲の予報された前日、その影響か、前夜からの雨が降り続いており、予定者の出席が危ぶまれたが、会員二十八名、家族十九名が出席、定刻より一時間余遅れたが開会の運びとなる。

まず去る六月二十五日急逝なされた、本会創設の発起人、育ての親ともいえるべき松村会長の追悼会。千葉達人様から、御逝去と御葬儀の模様のご報告があり、一同起立、一分間の黙禱を捧げ、ご冥福を祈ると共に、御来席の奥様に心からお悔み申し上げる。

代田稔京都支部長の開会の挨拶、原正一東京支部連合会幹事長の来賓挨拶、池田茂登京都支部幹事の会務報告があつて第一部の総会を終る。

引続き第二部の懇親会は、大沢隆三様の乾杯の音頭で始まる。黄檗宗の開祖隠元禪師がはるばる中国からお伝えになった精進料理「普茶料理」に舌鼓を打ちつつ

恒例の自己紹介。旧知の者も初顔も、家族共々和気あいあい。飲む程に酔う程にあちこちグループに別れて肩たたき語り合う。

宴なれば、後任会長が満場一致で代田京都支部長に決定、拍手かっさい。力強い新会長の就任挨拶に大かっさい……。

宴は何時果てるとも知れない状態であつたが、引続き市内名所観光が残っている。松崎武雄様の音頭で母校並に関西支部連合会の弥栄を祈念しての万才三唱。校歌、信濃の国の斉唱をもって十五時三十分閉会した。

午前中降り続いた雨は、我々のために午後にはピタリと止み、観光組は代田会長がチャーターしてきてくれた「琵琶湖観光バス」で平等院、天ヶ瀬ダム、朝日焼窯場を見学し、京都三条駅、国鉄京都駅にて夫々来年の元気な再会を約して解散。

散、楽しかった一日を終る

(附記)

▲当日の出席者  
原 正一(田39)大沢隆三(田15)  
代田 稔(中1)松崎武雄(中19)  
矢沢道雄(中25)池田茂登(中25)  
千葉達人(中27)田中茂次(中30)  
中塚春男(中36)中川重成(中39)  
安東幸正(中40)久保田清(中41)  
宮内 武(中41)宮下 啓(中44)  
倉沢好昭(中47)木下修二(中52)  
稲垣智司(中52)倉沢行洋(中54)  
川手 勤(中54)小池 亨(中55)  
牧内成夫(中56)三輪正胤(中59)  
沢井年治(中61)宮沢俊樹(中62)  
市瀬 憲(中62)日置泰弘(中62)  
白上平治(中63)篠原英雄(中68)

東京から懇々お越しいただき、当日大変ご元気だった田中茂次様が去る九月二十九日昼時、会議中突然倒れられ、直ちに入院されましたが、翌三十日午前九時四分永眠されました。

田中様は昨年東京の会社に転職され、御都合で欠席された以外、本会創設以来毎回ご出席いただき、会の発展にご尽力くださいましたこと、皆様と共に感謝し、衷心よりご冥福をお祈りします。

(中塚 春男)

## 老人の同級会

我々が飯田中学(旧制)を卒業したのは第十一回、明治四十五年三月である。その三月に、過去十四年も校長をされた初代校長の島地五六先生が急逝されて、卒業証書は校長代理の市瀬保三先生名で授与された。

明治四十年四月、二倍近い志願者の中から競争試験

で入学した一年生は百二十名であったが、卒業したものは五十名、然も一年生から順調に進級して卒業したものは四十名足らずで、その他のものは落第或いは病気の他のものは落第或いは病気が、その他で休校していたものが同級になったのである。

歳月は涼々と流れ去って

本年は卒業後満六十年である。同級生の大部分の者は既に幽明境を異にして語る術なく、生きて此の世に在る者は東西南北遠く相離れてその消息を知る由もない。こゝらで同級会をやらねばあの世では同級会も出来まいと考へて、同窓会会員名簿(昭和四十五年八月発行)をたよりに案内状を出したものの十六人(筆者をも加えて)。

時は昭和四十七年六月八日、九日。場所は駒ヶ根市駒ヶ根高原・高原荘(一泊)病氣のため残念ながら欠席するが盛會を祈るとの返事は北海道札幌の木下武彦君、松川町原太一君、西宮市の安達世毅君。主人は昨年永眠しました。生存していたなら喜び勇んで参加したものを、残念でなりませぬと、切々なる衷情を訴えて来た返事が岡谷市の杉本一男君と喬木村の片桐俊一君の未亡人からであった。

東京の小林金一君への案内状は名宛人不明の附箋がついて戻って来た。その他の方は杳として消息がなかった。

八月八日、私は通知した約束の時間に駒ヶ根駅の改札口に立って待っていたところ、先づ下車して来たのが名古屋の吉川清雄君と原浩君、阿南町の伊藤伝利君、飯田の矢高東君、そして長野の矢島正治君がお嬢さんの運転する自家用車で駅前におりた。これで六人となつた。みれば満七十八才と七十九才の者達である。

車で駒ヶ根の麓の高原荘について。高原荘は駒ヶ根観光株式会社経営する旅館で、清流太田切川の南岸にあつて、駒ヶ根を一望でき、最近超音波発生器に依るラジウム人工温泉のある旅館で、かつて皇太子殿下御夫妻も宿泊された高原旅館である。

先づ一同揃つて入浴、浴槽から夕焼に輝く駒ヶ根の夕姿を眺めて、やつと落ちついた久闊の同級生達であつた。この夕べ、太田切川の清流に面した静かな一室で潺湲たる流れの音を聴きつゝ、一席設けて、飲み且つ語り、語つては又飲み、或る者は詩を吟じ、或る者は絵を画き、漢詩を作る者、句作する者、書をものする者、各人各様、得手勝手放題であつて、正に「春宵一刻値千金」の思いであつた。

そして、八十年近く生きて来たものは、その巧拙は兎も角、八十年の年輪のやすからぬものがあることと、この年齢になると心境の底辺が同一の地平線に来るものであることをしみじみ感じた。

「君見ずや高堂の明鏡白髪を悲しみ、朝には青糸の如く暮には雪となる、人生意を得ばすべからく歡を尽すべし、金樽をして空しく月に対せしむなかれ」の意気であらうと語りながら、これら老人達の姿は「宿昔青雲の志、蹉跎たり白髪之年、誰か知らん明鏡の裏、形影自から相憐れまんとは。

翌日はロープウェイで駒ヶ根登山を案内すべく準備万端であつたが、早朝からの雨のため中止。早朝から入浴したり、雨の高原を眺めたり、そして又昨夜の続き、互いに語りつきせぬものがあつた。昼に名物の高原そばに舌鼓を打ち他日の再会を言わずのうちに契りあつて帰途についた。高原の雨の中を帰り行く五人の老同級生達の後姿をみて人生八十年は長いものであるとしみじみ感じた。

(北原名田造)

## 同窓会

# 支部だより

八月八日、私は通知した約束の時間に駒ヶ根駅の改札口に立って待っていたところ、先づ下車して来たのが名古屋の吉川清雄君と原浩君、阿南町の伊藤伝利君、飯田の矢高東君、そして長野の矢島正治君がお嬢さんの運転する自家用車で駅前におりた。これで六人となつた。みれば満七十八才と七十九才の者達である。

車で駒ヶ根の麓の高原荘について。高原荘は駒ヶ根観光株式会社経営する旅館で、清流太田切川の南岸にあつて、駒ヶ根を一望でき、最近超音波発生器に依るラジウム人工温泉のある旅館で、かつて皇太子殿下御夫妻も宿泊された高原旅館である。

先づ一同揃つて入浴、浴槽から夕焼に輝く駒ヶ根の夕姿を眺めて、やつと落ちついた久闊の同級生達であつた。この夕べ、太田切川の清流に面した静かな一室で潺湲たる流れの音を聴きつゝ、一席設けて、飲み且つ語り、語つては又飲み、或る者は詩を吟じ、或る者は絵を画き、漢詩を作る者、句作する者、書をものする者、各人各様、得手勝手放題であつて、正に「春宵一刻値千金」の思いであつた。

そして、八十年近く生きて来たものは、その巧拙は兎も角、八十年の年輪のやすからぬものがあることと、この年齢になると心境の底辺が同一の地平線に来るものであることをしみじみ感じた。

「君見ずや高堂の明鏡白髪を悲しみ、朝には青糸の如く暮には雪となる、人生意を得ばすべからく歡を尽すべし、金樽をして空しく月に対せしむなかれ」の意気であらうと語りながら、これら老人達の姿は「宿昔青雲の志、蹉跎たり白髪之年、誰か知らん明鏡の裏、形影自から相憐れまんとは。

翌日はロープウェイで駒ヶ根登山を案内すべく準備万端であつたが、早朝からの雨のため中止。早朝から入浴したり、雨の高原を眺めたり、そして又昨夜の続き、互いに語りつきせぬものがあつた。昼に名物の高原そばに舌鼓を打ち他日の再会を言わずのうちに契りあつて帰途についた。高原の雨の中を帰り行く五人の老同級生達の後姿をみて人生八十年は長いものであるとしみじみ感じた。

(北原名田造)



# 初夏の伊豆

## 第十九回同級会記

第十九回クラス会は、爽やかな沙風と、万緑が眼にしみる伊豆の伊東で、六月十七日開催された。

過去十数回に及ぶクラス会は、飯田を開催地としており、特に昨年は物故者の慰霊法要を催し、遺族未亡人を招き懐旧談に時を過ごすなど盛大であった。その時の申し合わせで今年には在京者が当番となり、先輩代田稔氏（十七回・ヤクルト会長）の好意により、ヤクルト伊東寮が提供された。出席者は夫人三名、娘さん一名を加えて二十二名、予想外の出席、盛会であった。

▲老友みな若し  
飯田での常連は別として一別以来五十二年ぶりという級友もある。何とも形容の出来ない感激と感慨に胸一杯になった。我も老いたるが、彼も老いたであろう、随分変わったであろうと、誰もが抱いてきた想像であった。それなのに、何という不思議な現象であろう。語る程に、飲む程に、その顔、その声、もの影はまさしく、かつての飯中時代の若き姿である。

五十年 友みな若し  
伊豆の初夏



在京の富永和夫、篠田作衛両君の司会挨拶は、最初から遠慮のない、ユーモラスな表現で述べられ、満場に爆笑が湧いた。老いたりとはいえ、杯を重ね酌み交わして時の過ぎるのを忘れ和気藹々、意気まさに天を衝いた。やがて、「赤石山は」の校歌合唱が始まった。乾杯、また乾杯、寮の規定時限りぎりぎり交歓つきるところを知らなかった。

▲伊東の朝  
なつかしくもまた、楽しき伊東の一夜であった。感激と感慨が交錯し、なかなか眠られぬ夜の伊東であった。

つた。明けやすき初夏、ふと眼を覚ますと雨が降っているらしい。窓辺に寄り添って寮の崖下を俯視すると、灌木と若竹の林に網のような細い雨が降り注いでいる。夏晩の伊東に

友と別れる時が迫った。昨夜残した酒を茶碗で酌み交わしているうちに、言い知れぬ感傷がこみあげて来

# 同級会の記

## ＊中学第十七回卒業生＊

た。来年は松崎武雄君を頼むとして、京都で開催と予定したので、みんな健康に留意して再会しよう。それではさようなら。

去る十月十七日に恒例の同級会を開いた。何回目になるかちよっと思ひ出せない。第十七回という、大正七年三月の卒業で、もう数十年の昔になる。当時の紅顔の美少年今は白髪まじりの老人である。

先生は茨城県の出身、旧東京高師の英語科を卒業、同時に当校に赴任された。二十三年の若さであった。私たちは一年から先生に教えていただいた。私たちが先生の最初の教え子である。先生は私たちの四年一期の時に会津の中学校に転任せられた。その後太田中学などの校長を歴任せられたが、終戦後茨城県の教育長に就任、退職後常盤太田市の市長を勤められた。その時の選挙は金権候補を向うに廻しての激戦であったという。

を尽くして来られた。かつて七十歳（？）の時にわが国の青少年団長として西独に使したが、相手は七十歳の団長に驚いたという。この頃も茨城県の教育者五十名を引き連れて本県戸倉の教育大会に見えておられる。恩師の健在ぶりを拝見するのは実にうれしいものである。

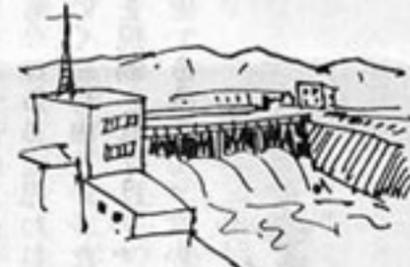
先生は詩歌をたしなみ、時には絵筆もにぎられ、「英詩鑑賞」の著書もある。一方、高師在学中は剣道の選手で、初段の腕前、昔は初段といえはまずは晴天の星であった。先生に古武士の風格のあるのもそのためであろうか。

同級会には西野先生を囲んで十五名が出席した。さして多い人数ではないが、東京その他遠方から馳せ参じる者があり、貴重な十五名であった。まず中川村の小波湖温泉で川魚と松茸の料理で昼餐会、それから飯田市に直行し大橋旅館で会合、記念撮影をしたり、寄せ書きをしたり、楽しい会合であった。

学びの窓の明け暮れに共に睦びし友垣よ山河遠くへだつとも心は寄せよこの窓にこれは昔の卒業式の歌の一節である。同級会の日、私たちはこの歌を改めてかみしめたのである。

頭は古橋飯田郵便局長で、松尾医師、田中伊那建設事務所長がこれに続く。飯田ガスの大田中社長も白くなら行くけはいい。私はその両天稔。若々しいのが今村歯科医師であり長坂組社長である。四十一回同級会も私が幹事長で年に一回は必ず開かれる。他の事はホッポリ出しておいてもこれだけは真面目におこなう。中学校の成績は悪かったが、人間何処かとりえが無くてはと独りなぐさめてみる。

昭和十二年四月、飯田市制がひかれたその日、私達四十一回生は飯中へ入学した。実に、稲穂の帽章に白線入りのはじめてかぶった帽子に、誇りと喜びをこめて、市制祝賀の提灯行列に参加した。「朝だ夜明けだ人生の春だ、鐘は鳴る鳴る若い血はおどる。」姫城会で習ったの歌を歌って、銀座通りを朴樹の下駄で闊歩した。その年の七月には



# 中四一回だより

日支事変が勃発、四年生の年には太平洋戦争。と中学生時代は戦争にはじまり戦事色に塗られた。そんな中学生生活を振り返りかえって、今年入学以来丁度三十五年、卒業から三十年である。腹がとび出たり顔がしわっぼくなるのは当然で頭の方もうすくなったり白くなったり。市役所の荒尾君、西尾医師等は、その薄い方、ロマンスグレーの筆



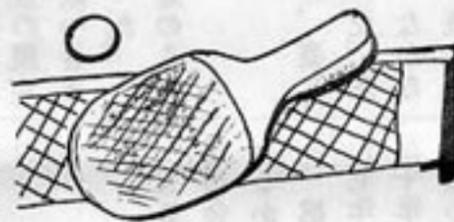
# 後輩よ頑張れ!!

## ——先輩から一言—— 高橋 恵 一

インターハイ・国体・新人戦等の地区予選・県予選の時期が来る度に、入賞者・学校名の中より飯田高校の名前が近年ほとんど見当らないのは、我々の先輩時代より現在の飯田高校運動部の活躍を知る私には、過去の活躍を考えると非常に淋しい限りである。学校のクラブというものはその様な試合で勝つためのものではないと言えればそれ迄であるが、それぞれの全国大会があり、それを目標として練習している各クラブの現状からして勝つに越したことはないと思う(それも全校生徒のほとんどが何らかの部に属し、楽しみと体力づくりのために存続している運動部というのであれば話は別ですが) 学生時代より現在に至るまで好きでやめることが出来ずに自分の生活の一端とし続けている卓球ですが、それでももともと上手に強くなりた

い、大きな試合に出たい、その上勝ちたい、負ければ悔しいと思う私ですが、それがずいぶん私の生活の励みともなり、生きがいでもある。校風も時代の流れに

より環境も変わり飯田高校は勉強さえしていれば良い学校も大学進学のための予備校的な存在であるということなら私の考え方も変えねばなりません。勝つためには正しい卓球をし、人一倍の努力と苦しい練習をしてこそ得られるものと思う。その苦しみこそ人間



形成になり将来に役立つものであり、真の高校生の姿であると思う。勉強との両立、確かに難かしいことかもしれないが決して不可能なことではない。それを少しでもすることに依って高校生活の意義があるものと信じます。学校・父兄・我々先輩が一体となり、時代の流れにとらわれることなく高校校のためにもう一度運動クラブのあり方を考えていた

ださたく思います。そして、我々が過ごした有意義な高校生活を送った様な名実共の飯田高校であって欲しいのが私の願いです。

飯田卓球連盟 副理事長 (高七回卒)

今年度実施された制服自由化の試みはたいそう時宜にかなったものであったといえる。事実他地区の多くの学校が自由化の傾向にあること、また制服そのものの定義があいまいになって

### 賞

### 賛

小林 芳 和

世の流れというか、本校でも去る七月十五日をもって制服が自由化された。そこで、賛否両論ある中で、それぞれの立場で意見をうかがってみた。

しくなってきたことなどで、時の流れがこの問題に大きく巾をきかせている。また、着ている本人(男生徒)がつめえりを苦しがりたり、(男女ともに)制服が不潔に陥りがちな点など考えても、制服がすでに荷やっかいなものになってきた感がある。このように、外的にも内的にもすでに自由化の動きは高まってきておった。だから、「期は熟したり」と見て生徒会で全校共通の問題として、取り上げ、決議にまでもっていったのは賢明な策であったと言えると思う。

かくして、幾多の困難をのりこえ、七月、待望の自由化となった。

生徒会ではそれ以前「制服問題特別委員会」を設け話し合った。その中で実施後の不安としてあげられることは、華美になること、経済的に浪費的になることなどであった。しかし、実施されて数カ月を経た今日では、そんな問題は全く見当らない。

ぼく自身も、自由化以後のなんの制約も受けない気風は好きだ。何週間も同じ制服をまとっていた時分よりもずいぶん清潔になった気がする。今考えてみると、昔はなんとも味気なかったようだ。黒一色は或る人がみれば気持ちよいかも

ないが、ちがう人がみれば

なんとも奇妙なものだ。黒い衣を脱ぎすて、新しい色採の世界が現われた気がする。経済的には少しは制服費が多くなっているかもしれない。だが、色採感覚をとりもどした代償と比べれば安いもののように思う。

こう書くと、学生でありながら服ばかりを気にして、と思う人もあろう。しかし断じて、飯高生、制服は脱いで、そのために本を買

えなくなるようなことはしない。勉強はやっている。考えてみれば、制服自由化に際して、いくつかの問題点があるのも確かだ。だが、それらは決して非り去られようとはしていない。

全ての会員の自覚は少なくとも今はあると思われる。いくら自由と云ったって、服を規制されなければ自由というもんじゃありません。制

服を着ていたって自由はある。だが、着たいものも着れず、ただ黒い服一枚に着せられていることはどう考えても不自然だ。だから、自由化は進歩だ。世の中も質素儉約、ぜい沢は敵の時代から、消費生活の世に変わった。服装も、制服の時代からジーパンの時代になった。我々飯田高校の制服自由化が一つの新しさをもっていることもしくは自負している。だからこの地域であんまり評価が高まらないのが不満な位だ。

この一つの新しい自由は全校の手で大切に育てられていかねばならない。自由化が非行化の助長につながるとしたら、それをみながら手で阻止しなければならぬ。またそれは可能だ。そこにこそ新しい自由の再認識がある。

自由化は進歩だ。世の中も質素儉約、ぜい沢は敵の時代から、消費生活の世に変わった。服装も、制服の時代からジーパンの時代になった。我々飯田高校の制服自由化が一つの新しさをもっていることもしくは自負している。だからこの地域であんまり評価が高まらないのが不満な位だ。

この一つの新しい自由は全校の手で大切に育てられていかねばならない。自由化が非行化の助長につながるとしたら、それをみながら手で阻止しなければならぬ。またそれは可能だ。そこにこそ新しい自由の再認識がある。

自由化は進歩だ。世の中も質素儉約、ぜい沢は敵の時代から、消費生活の世に変わった。服装も、制服の時代からジーパンの時代になった。我々飯田高校の制服自由化が一つの新しさをもっていることもしくは自負している。だからこの地域であんまり評価が高まらないのが不満な位だ。

この一つの新しい自由は全校の手で大切に育てられていかねばならない。自由化が非行化の助長につながるとしたら、それをみながら手で阻止しなければならぬ。またそれは可能だ。そこにこそ新しい自由の再認識がある。

この一つの新しい自由は全校の手で大切に育てられていかねばならない。自由化が非行化の助長につながるとしたら、それをみながら手で阻止しなければならぬ。またそれは可能だ。そこにこそ新しい自由の再認識がある。

この一つの新しい自由は全校の手で大切に育てられていかねばならない。自由化が非行化の助長につながるとしたら、それをみながら手で阻止しなければならぬ。またそれは可能だ。そこにこそ新しい自由の再認識がある。

この一つの新しい自由は全校の手で大切に育てられていかねばならない。自由化が非行化の助長につながるとしたら、それをみながら手で阻止しなければならぬ。またそれは可能だ。そこにこそ新しい自由の再認識がある。

この一つの新しい自由は全校の手で大切に育てられていかねばならない。自由化が非行化の助長につながるとしたら、それをみながら手で阻止しなければならぬ。またそれは可能だ。そこにこそ新しい自由の再認識がある。



# 第16回 強歩大会を終えて

## 執行委員会

はじめに、今強歩大会に際し、協力下さったPTA同窓会の皆さんに心から御礼申し上げます。今年の大大会は雨で予定が一日延び、当日においても厳しい冷え込み襲われ、悪条件の下で行なわれたこともあり、昨年より落伍者が多かったことが唯一の心残りでした。夜九時に出発したのですが、速い者は午前三時前に本校へ着きました。速ければ速い程競技として良いのですが、第一に六十六歳を走ったり歩いたりしてとにかくゴールまで着くことに、自分の限界に挑み、且つ精神力を鍛えるという大きな意義があります。完歩した者は「近頃の若い者はだめだ」と言われる言葉に対して

「だめじゃないよ」という意気を見せると思っています。この大会には先輩の方が数名参加して下さいました。その中で六十歳を過ぎた先輩が出場され、完歩されたことに我々は大いに感激しました。

このように学校ぐるみの大会も、年々交通事情の深刻化等によって道路使用等の許可が得られにくくなりつつあります。今後、そう長くは現状のままで行なうことが出来なくなるのではないかと推測もありません。しかし、そうした事態に変化はあっても、この伝統的な強歩大会は是非続けたいと思っております。

# 卒業記念写真の整備に御協力を

明治二十九年といえ、まだ支校時代ですが、その頃からの修・卒業の時の写真があります。しかし全回揃っていないことが残念です。そこで皆様の御協力を仰いで全回を揃えて保存したいと思っております。

先ず欠損している回を次に挙げますので、それをお持ちの方からお借りして復写します。お申し出下さい。尚此の際全回が揃ったら、御希望の方には実費でおわかしたいと存じますので、御希望の方は、その回数を御申し込み下さい。一応四十八年一月末日までとします。お借り出来る方が判明しない可否がわかりませぬので、詳細は該当者と御連絡の上で進めてまいりま

- 欠損しているもの
- 中一回 (明四五年三月)
- 中二五回 (大一年三月)
- 中二八回 (昭四年三月)
- 中三〇回 (昭六年三月)
- 中三二回 (昭八年三月)
- 中四二回 (昭一八年三月)
- 中四三回 (昭一九年三月)
- 中四六回 (昭二二年三月)
- 中四七回 (昭二三年三月)
- 中四八回 (昭二四年三月)
- 併一回 (昭二三年三月)
- 併二回 (昭二四年三月)
- 高二二回 (昭二五年三月)
- 高四回 (昭二七年三月)

# 暁峰会総会 盛大に

八月十二日、飯田観光ホテルにおいて、暁峰会(下久堅支部)総会が行なわれた。支部長の三石栄氏を中心に約三十人が参加し、昔なつかしい話に花を咲かせ、楽しい一時をすごした。

事務局

# 制服

昭和二十年八月十五日、この日を我々が忘れることが出来ない。大東亜戦争の終戦記念日である。この時から数えて二十七年、あの敗戦の荒廃した社会から、我々日本人の勤勉と努力によって今日見ようような世界に誇り得る復興が成り、平和憲法のもとに平和日本が生まれたわけである。この復興の過程の中で、全く新しいことが発生した。「デモクラシー」がそれである。これ程我々を困らせたものはない。当時の我々はこの何を何でも自由気ままな事が出来るのだと感ちがいをしておった。このことが、だんだん変化し、これがいいには、無責任な行動となり、何時しか民主主義が無責任主義に変化して来たのである。このことは特に学生において見られる。赤軍派による浅間山荘事件をはじめとする一連の学生の暴力行為・・・人を殺し、器物を破損し、他人に迷惑をかけることを平気でやるようなことが現実となって現われている。これは民主主義に反し、誤った解釈をしておる証である。自由の裏には責任と義務がなくはならない。このことをはきちがええると無責任な行動となって現われてくるのである。

今一つ、戦後我々日本人から大切なものが失われて来ている。何か！それは道徳である。現在は驚く程の無道徳時代である。家にあつては親を親とも思わない。職場にあつては、上司を上司とも思わない。学校にあつては、教師を教師とも思わない。その他例を挙げれば全く数えきれない。何も今更若い人達に頭から昔のことを押しつけようとは思われない。しかし人間である以上、常識を失わず、道徳だけは守りたいものがあり、文守らなければならぬ。

最近母校では服装の自由化が生徒会で討議され、その決定に基づき学校当局もこれを認めたようである。その理由についてはあまり聞いてはいないが、私はその理由は兎も角として、それを決めた生徒会も、又それを認めた学校当局にも驚いておる。

学校とは一体何をすることだろうか？ 先ず第一は、学問をすることである。第二は、その学問を通じて人間形成を行うところである。学問をすることの嫌なものには学校へ行く必要はない。学校は又集団生活の場でもあり、その集団生活を通して必要なものは規律である。学校には学校の規律がなくはならない。この規律を守ることが又学生としての義務でもある。

昔から稲穂の帽章のついた学帽と、稲穂のボタンのついた学生服を着て、私達は飯中の生徒であるという誇りをもったものである。最近、学帽はかぶらない。頭髪は耳を覆い長く垂れ、学校帰りにパチンコ屋へ寄ったり、中にはバーへ飲みに行ったり、タバコを吸ったり全く学生の本分を忘れた生徒をよく見かける。もしこれ等の、未成年者として法律に禁止されている行為が、正服正帽の姿だったら、出来るだろうか、絶対に出来ない筈である。

私はこの辺に問題があると思う。先程述べたように、学校は先ず第一に学問をするところであるから、理屈抜きで学問をすればよい。それに学校は人間形成の場であるのだから、もっとも道徳教育と精神的な修練を積む必要がある。

今回の服装の自由化問題に対し、学校当局にも生徒会諸君にも今一度考え直す必要のあることを提言する。そんなことを長い時間を費やして討議する暇があったら、勉強すればよい。そして教師は教師、生徒は生徒という厳然たる本来の立場にかえり、精神的に強く逞ましい人間形成に努力し、飯田高校の伝統を汚さないより切望する。

(中四七回)

対 久 男  
この日を我々が忘れることが出来ない。大東亜戦争の終戦記念日である。この時から数えて二十七年、あの敗戦の荒廃した社会から、我々日本人の勤勉と努力によって今日見ようような世界に誇り得る復興が成り、平和憲法のもとに平和日本が生まれたわけである。この復興の過程の中で、全く新しいことが発生した。「デモクラシー」がそれである。これ程我々を困らせたものはない。当時の我々はこの何を何でも自由気ままな事が出来るのだと感ちがいをしておった。このことが、だんだん変化し、これがいいには、無責任な行動となり、何時しか民主主義が無責任主義に変化して来たのである。このことは特に学生において見られる。赤軍派による浅間山荘事件をはじめとする一連の学生の暴力行為・・・人を殺し、器物を破損し、他人に迷惑をかけることを平気でやるようなことが現実となって現われている。これは民主主義に反し、誤った解釈をしておる証である。自由の裏には責任と義務がなくはならない。このことをはきちがええると無責任な行動となって現われてくるのである。

反 村 沢 久 男  
今一つ、戦後我々日本人から大切なものが失われて来ている。何か！それは道徳である。現在は驚く程の無道徳時代である。家にあつては親を親とも思わない。職場にあつては、上司を上司とも思わない。学校にあつては、教師を教師とも思わない。その他例を挙げれば全く数えきれない。何も今更若い人達に頭から昔のことを押しつけようとは思われない。しかし人間である以上、常識を失わず、道徳だけは守りたいものがあり、文守らなければならぬ。

最近母校では服装の自由化が生徒会で討議され、その決定に基づき学校当局もこれを認めたようである。その理由についてはあまり聞いてはいないが、私はその理由は兎も角として、それを決めた生徒会も、又それを認めた学校当局にも驚いておる。

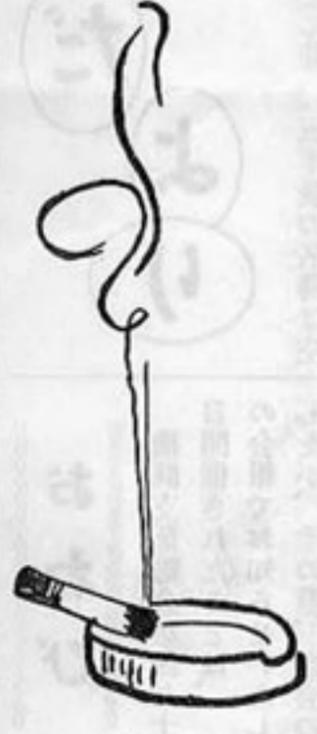
学校とは一体何をすることだろうか？ 先ず第一は、学問をすることである。第二は、その学問を通じて人間形成を行うところである。学問をすることの嫌なものには学校へ行く必要はない。学校は又集団生活の場でもあり、その集団生活を通して必要なものは規律である。学校には学校の規律がなくはならない。この規律を守ることが又学生としての義務でもある。

昔から稲穂の帽章のついた学帽と、稲穂のボタンのついた学生服を着て、私達は飯中の生徒であるという誇りをもったものである。最近、学帽はかぶらない。頭髪は耳を覆い長く垂れ、学校帰りにパチンコ屋へ寄ったり、中にはバーへ飲みに行ったり、タバコを吸ったり全く学生の本分を忘れた生徒をよく見かける。もしこれ等の、未成年者として法律に禁止されている行為が、正服正帽の姿だったら、出来るだろうか、絶対に出来ない筈である。

私はこの辺に問題があると思う。先程述べたように、学校は先ず第一に学問をするところであるから、理屈抜きで学問をすればよい。それに学校は人間形成の場であるのだから、もっとも道徳教育と精神的な修練を積む必要がある。

今回の服装の自由化問題に対し、学校当局にも生徒会諸君にも今一度考え直す必要のあることを提言する。そんなことを長い時間を費やして討議する暇があったら、勉強すればよい。そして教師は教師、生徒は生徒という厳然たる本来の立場にかえり、精神的に強く逞ましい人間形成に努力し、飯田高校の伝統を汚さないより切望する。

(中四七回)



# 学園の窓

## 高松祭によせて

生徒自治会の最大の行事ともいえる高松祭は七月十五・十六・十七日に行なわれた。毎年マンネリ化が叫ばれる中で、今年は我々一人一人の意志行動を最も反映し易い組織として、従来執行委員会に代ってクラスに基盤をもった高松祭実行委員会が運営の中心になった。これは「我々一人一人こそ高松祭の主役であり、我々の行動がそのまま高松祭を形造っているんだ。」ということによるものだが、今年準備期間が短かかったため十分な成果をみるこゝとができず、来年に期待したい。

まず、前夜祭が高松祭の開幕を告げる。「小じんまりとまとまってる。」と言われた先生の評もあったが、ピンポンパン体操まで飛び出し、なかなかの好演技名演奏があり、かなり良い線をいっていた。

翌第一日、音楽会が行なわれる。一・二年にはフォークダンスなどが多く、三年は本格的な曲が多くさすが。ただ全体としてレベルが下っているのは飯高音楽教育のせいでもあるまいし、なぜか？

午後と翌日は展示・ステージ発表・招待試合など多彩な行事がある。一般公開となり校内は活気に満ちあふれる。ただ雨にたたられて客脚が伸びず、喫茶の売り上げにひびいたのは痛かった。

今年はこの時間をクラブ発表に限らず、みんなの時間にしようと、クラブ以外の発表も募られ、その中に三C・三Dのクラス新聞の展示があった。数カ月殆んど欠かさず毎日発行されたものだけあって、まとめられたのはなかなかのものだった。展示発表では殆んどの班が苦心の研究を発表していたが、今年できた「風研」の発表は人気だった。

社研・郷土などでは討論の輪が、将棋では対局の列があった。

第三日はまず、分科会。考えることも必要じゃないかと設けられたこの分科会も、魅力がないという意見も多く、出席もかばしくなかつたが「女性と職業」などでは、活発な討論がされたようだ。

続いてフォークジャンボリー、昨年吉田拓郎を呼んで大いにうけたため、今年も二匹めのどじょうをねらった感があったが、秋田民謡のふんいきをもった山平和彦と甘いディランの演奏を聴いて酔った。

高松祭の最後を飾るフアイヤーストーム。水をかぶり泥をかぶり、赤々と燃え上る火の周りを、肩を組んで狂ったように走るのはいいものだ。今年もカップルが多かった。

応援団管理委員会の廃止によって一・二年生は応援歌を知らない人が多く、しられたのは残念だった。また走る人が年々減っていくのは時の流れか？

こうして今年の高松祭は終りを告げた。高松祭には多くの問題もあるが、高松祭のない飯高生活なんて考えられないという人が、程度の差こそあれ、我々の殆どを占めるのではないかと思う。

（執行委員会）

我が風研究会も、この間創立一周年を迎えた。現在新旧まぜて十五名の会員であるが、女子四名も含まれている。「風研」なる会がなぜ発足したのか。それは当時のクラブ、同好会に対する不満がもとで、「自分たちの手で『幼い頃に掲げたあの風について、科学的な追求をしていく研究会』を創立しようではないか」という結論に達してのことであった。

## 風研究会

しかし「立体風」は形が大き、心もとない人がいたずらしたりするので、こわされてしまう。というのは、現在は講堂の片隅を借りて風を置かせてもらっている。だから安全な置場を確保したい。ちょうど、部室解体、家庭科教室新設のこの折に、なんとかならないものかと思っている。

今後風が増え、なお一層重大な問題になることが予想される。

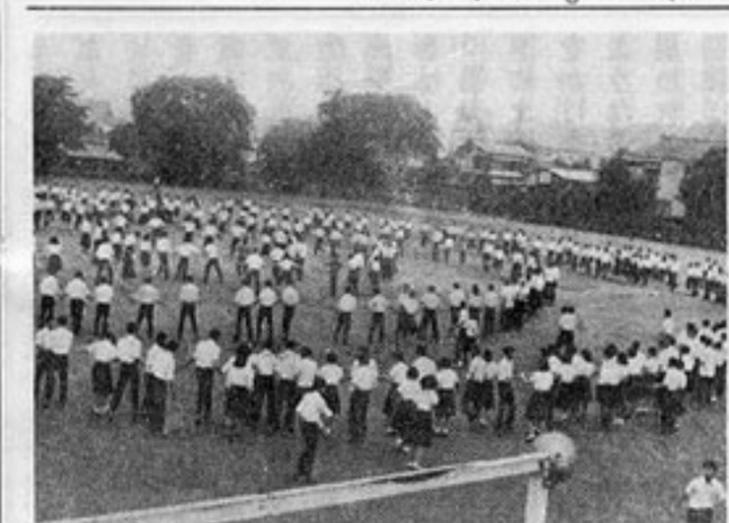
## 事務局

## だより

住所不明者調べに御協力を一昨年の会員名簿は各回責任者が書いて下さったもので、御本人が知らぬ間に誤った卒業校など書いて怪しからぬと御立腹の御人もあった。然らば次回各自に責任を持ってもらうことが良からう。それは理想的だが、それにしても不明者をなくすことが先決問題です。春からやと五百名近くをさがし出したが、一方六月以来の返戻が四百通。賽の河原の石積みにも等しいものです。転勤・転住の通知を下さるのは年間百名とばかりありません。放っておけば毎年約五百名以上が不明

となり、三年後の名簿は空欄が遂に三千名以上になる勘定になります。今、この会報を手にした方は、このことを銘記されて異動の際はどうか御連絡を下さい。現在不明者約二千四百名、この御本人方は何も知らないのですから、何とかお耳に入れる方法はありませんか。同級会の度毎に強調していただきたいと思います。

横浜支部総会が四月十八日開催されたことは、春の会報でお知らせいたしました。その際、参会の皆様の温かいカンパ、金一万五千円を本部へ御寄贈いただきましたことを書き落としてしまいました。茲に深く陳謝申し上げますと共にあらためて御礼申し上げます。



フォークダンス

等々お寄せ下さるようお願いいたします。又、総会の講師推薦を一月末までお願いいたします。それによって役員会で選考、交渉し、春の会報には決定のお知らせをしております。

沢山の原稿を頂戴して、当初予定の八頁に収容出来なくなり、また、それぞれ大切な内容で（添）削ることがはばかれ、ついに増頁にふみ切りました。そんなことで発行が大変遅れましたことをお詫び申し上げます。生徒会からも協力を頂き、かくして先輩・後輩お互いの心が通じ合い、拙がついていくことは有難いことです。

向寒の折、会員皆様の一層の御自愛と御健闘をお祈り申し上げます。